

ファンドマネージャー 秋野 充成の AKINO REPORT



代表取締役社長 秋野充成

いちよしアセットマネジメント

FM 今週のポイント（6月8日）

*日経平均株価が一時、68000円を突破しました（6月3日）。5月20日の59800円から、わずか10日で、約15%の上昇です。この間、NYダウは約1.4%、S&P500指数が約1.6%、ナスダック総合指数が2.2%の上昇に過ぎなかったことを考えると驚異的です。ちなみにTOPIXは5.4%の上昇に留まり、NT倍率は17倍台に拡大しました。SOX指数が約18%上昇しており、半導体株の爆騰が日経平均株価を押し上げたこととなります。日経平均株価のライバルである、台湾加権指数が約16%、韓国総合指数が約20%上昇しています。個別銘柄を覗いても、SBG(9984)、キオクシアHD(285A)が一時、トヨタ自動車(7203)の時価総額を上回りました(22年ぶりの時価総額首位交代)。AI・半導体株集中相場が続くのか?⇒当面の相場展望の重要なポイントです。

*AI・半導体株集中相場となった背景は、戦争継続による原油価格の高止まりが、供給制約懸念を引き起こし、いわゆる、景気敏感株全般に業績不安が生じていることです。AI・半導体株については、魅惑的な長期AIストーリー、半導体需給逼迫、ハイパースケーラーの巨額投資継続、AIサプライチェーンの充実、そして、何と云っても、業績拡大が確信的で、過剰流動性拡大の中で(日米欧中の中央銀行のドルベース総資産が前年差プラス)、トランプ相場継続(不確実性拡大の中でリスクオン)でリスクマネーがAI・半導体株に集中したわけですね。転機としては、①戦争終結による原油価格の低下、②米国の利下げ確率上昇によるゴルドロックシナリオ回帰、③AI・半導体株集中の限界、が想定されます。現状においては、①と②の確率は低そうです。③については、何時、起きても不思議ではありません。

*5日の米国株式市場は大波乱です。NYダウが695.15ドル(1.34%)、S&P500指数が200.57ポイント(2.64%)、ナスダック総合指数が1121.52ポイント(4.17%)、そしてSOX指数が1396.73ポイント(10.3%)の大幅下落です。きっかけは、5月雇用統計。非農業部門雇用者数増加が17.2万人となり、市場予想の8万人を大きく上回りました。3月、4月の増加数も大幅に上方修正されており、雇用環境の好調さが改めて確認されました。株式マーケットにおいては早期利上げが意識されました。雇用統計を受けて、クリーブランド連銀のハマック総裁は、現状のトレンドが続けば、「利上げを行うことが近いうちに適切になる」と発言しました。CME FedWatchによると、2026年12月FOMCでの米政策金利が4.00-4.25%(2回利上げ)となる確率は23.0%(前日10.9%)に上昇、3.75-4.00%(1回利上げ)となる確率は42.7%(同38.2%)に上昇、3.50-3.75%(現状から据え置き)となる確率は27.9%(同47.4%)に低下しました。

*前述したAI・半導体集中相場の転機が到来したのでしょうか?⇒雇用統計をきっかけとして、利益確定・ポジション縮小が先行、自律的なスピード調整が生じたことは間違いありません。SOX指数は、5月19日以来の25日移動平均線水準まで下落しました。CME日経平均先物も63800円水準まで切り下げており、週初の国内株式市場はAI・半導体株中心に大幅な下落は確実です。これは、本当の転機か?一時的調整か?⇒2日~3日、様子を見る必要がありますが、AI・半導体株集中環境に大きな変化はなく、一時的調整の可能性が高いと思われます(AI・半導体株集中の限界はまだ先)。今回の調整が長期化するとすれば、ハイパースケーラーの巨額投資に陰りが見られた時、現状の半導体需給逼迫観測が緩んだ時でしょうか。スペースXの上場(その後のアンソロピック、オープンAI)も危険です。当面は、本当の転機を待ちながら、あるいは、転機に備えながら、AI・半導体集中相場に付き合う他、ありません。付き合い方ですが、先頭銘柄であるキオクシア、SBGの反落に乗るか、出遅れの周辺銘柄を探るか⇒直近のMLCC関連はヒットでした。AIサプライチェーンが拡散しているため、いわゆる「つるはし銘柄」候補は増加中です(玉石混交であり注意が必要)。中小型株群においてもサプライチェーンの主要銘柄も多数存在していることから、要注目です。

裏面をご覧ください。

『 重要な注意事項 』

- この資料は、市場の現状の説明資料の一部としていちよしアセットマネジメントが作成し、いちよし証券がいちよしアセットマネジメントとの営業代理契約に基づいて提供するものです。未許可での使用、複製の作成や発表は法律で禁じられております。
- この資料は、いちよしアセットマネジメントが信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて同社により作成されたものですが、過去から将来にわたってその正確性、完全性を保証するものではありません。
- この資料は、投資の参考となる情報の提供を目的としたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。
- この資料に掲載されたデータ・グラフ等は過去の実績またはシミュレーションであり、将来の成果を示唆、あるいは保証するものではありません。また、記載された見解等の内容はすべて作成時点でのいちよしアセットマネジメントの判断であり、今後予告なく変更されることがあります。
- 投資一任業務による有価証券投資は、株価の変動により、または発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、損失が生じるおそれがあります。投資運用によって発生する損益はすべてお客様に帰属します。したがって、預貯金とは異なり投資元本が保証されているものではなく、一定の運用成果を保証するものでもありません。

○諸経費および投資リスクについて

- 投資顧問料については、契約資産に対して年金料率で最大0.4536%(税込み)の報酬をいただくこととなります。また、契約により所定の成功報酬をいただく場合があります。その他売買手数料等の間接的な経費がかかりますが、経費の総額については委託した証券会社により手数料率等が異なるため、上限額等を表示することができません。
- お客様のために行う取引については、株式、新株予約権付社債、公社債等の有価証券に投資しますので、国内外の経済・政治情勢、金利変動、発行体の業績や財務状況等の変化の影響により、投資した有価証券の価格が下落し、損失が生じるおそれ(外国証券は、為替相場の変動等により損失が生じるおそれ)があります。
- 信用取引やデリバティブ取引を行う場合は、差し入れた証拠金等の金額以上の取引を行う可能性があるため、原資産となる有価証券や指数等の価格変動により、差し入れた証拠金等を上回る損失が生じるおそれがあります。また、デリバティブ取引等の額の証拠金等の額に対する比率は投資方針や市場の動向等により変化するため、その比率を事前に示すことができません。
- 諸経費およびリスクについての詳細は、契約締結前交付書面をよくご覧ください。

商号等： いちよしアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第426号
加入協会： 一般社団法人 資産運用業協会